

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 18 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520915

研究課題名(和文) 雲南少数民族の薬草知識の「資源化」にかんする文化人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural anthropological study on "resourcization" of herbal knowledge among Yunnan ethnic groups

研究代表者

稲村 務 (Inamura, Tsutomu)

琉球大学・法文学部・教授

研究者番号：50347126

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：中国雲南省の少数民族の植物知識を中心に東南アジア諸国及び台湾、沖縄奄美、鹿児島との比較を通じてその特殊性と「資源化」を明らかにしようとした。特に中国政府の「少数民族」の文化の「資源化」の問題と民衆の対応について世界遺産指定、ABS法、エスニシティといった諸問題とともに現地調査を通じて同一の文化的集団や同じ植物を使う別の集団との比較からそれを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I attempt to clarify its particularity and "resourcization" of the botanical knowledge among ethnic minority in Yunnan through comparison with ASEAN countries, Taiwan, Okinawa-Amami and Kagoshima Pref. Especially I made it clear that "resourcization" of minority culture by Chinese government, and/or minority peoples's corresponds to it throughout field survey and comparison within same cultural group and with another cultural groups who use same plant, in addition to these issue from the aspects such as ethnicity, ABS, World Heritage nomination.

研究分野：文化人類学

キーワード：雲南 少数民族 資源化 薬草知識 八二族 アカ族

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には中国雲南省の少数民族における薬草知識の「資源化」が問題になりつつあり、中国政府もそうした動向に沿って知的財産権などの法整備に乗り出してきているという状況がある。このような国際的状況のなかで少数民族の民俗知も生活に密着したものから市場経済の眼差しを向けられるようになってきた。中薬、漢方薬、韓方薬といった現在の中国大陸に源を発する知識にしてもそれぞれの国家や民族によって洗練され、あるいは逆に中華的な伝統にも周囲の少数民族や日本や韓国などの知識も大きな影響を及ぼしている。そうした背景下においてグローバル・スタンダードの覇権争いが激化するなか中国とラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムに散らばっている同一の文化的背景を持ちながら歴史の覇権争いの結果分断されている少数民族の知識をひとつの国家に帰せしめるようなことは大きな問題である。中国は急激な経済の膨張と国内の高齢化の問題、および国境周辺の民族問題などを抱えており、こうした問題が複合的に本研究の資源の問題と関連している。

こうした問題の背景には、日本政府も名古屋議定書の形で重要な位置にある生物多様性条約の流れのなかで、特に A B S 法 (Access and Benefit sharing) と呼ばれる国際的な法整備の動きのなかにおいて、遺伝子資源、伝統的知識、フォークロアを議論する枠組みが模索される中、各国での伝統的知識の囲い込みが始まっている。この A B S 法においては先住民 (indigenous peoples) への衡平な利益の還元が謳われており、その権利がいったい誰にあるのかを巡って世界中でエスニシティの議論が進んでいる。

こうしたグローバルな国際的状況とそれぞれの国家のナショナルな動きとが今日「伝統的知識」と呼ばれているものをいかに境界づけられたもののように見せているのかを解明することが本研究の大きな前提であった。

## 2. 研究の目的

本研究はそうした民俗知をめぐる政治経済的状况からそれをどう保護活用すればよいかを考えることを目的とする。世界中で不足している広い意味での資源の問題を考えることによって国際的平和共生への道を考えることを大前提とする。

A B S 法について植物知識を目に見えるものとして中心においたが、関連して歴史研究、口承史研究、世界遺産指定などについても同様の視点で資源人類学の観点から研究を行った。歴史研究は資源化の主体となる「民族」がいかに構築されてきたのかを解明するものであり、世界遺産研究はその主体がどのように国際的に理解されるのかを具体的に究明するものである。それによってそれぞれの国々が民俗知をいかに資源化しよう

としているのかを解明することを研究の目的とする。

## 3. 研究の方法

主な研究方法は文化人類学的なフィールドワークによるものである。分析は農学や法学的な手法を援用しながら国際関係論を考慮した資源人類学的な分析を行った。具体的には中国雲南省の少数民族とラオス、タイ、ミャンマー、ベトナムなどの東南アジア諸国との比較を行った。特にラオスでの比較例をフィールドワークによって具体的に示すことができた。比較することでそれぞれの同一民族集団の知識がどのように分布するのかを把握し、中国国内にすむ同一少数民族の知識がどの程度政治的な影響を受けているのかを把握しようとした。その結果、そもそも中国で出版されているハニ族という少数民族の医学書というものがほぼ中薬をハニ語に翻訳しただけの書物であり、中国の研究機関はまったく調査をしていないことがわかった。それによって中国政府のこの問題への対応が少数民族保護を名目とした見えにくい政治であり、日本政府もよく把握できていない盲点であることが判明した。

また、ハニ族の棚田の世界遺産登録や土司遺跡などの歴史資源の囲い込みについて歴史学的な分析や法学的な研究も行った。また、沖縄奄美や鹿児島での調査も行ったが論文の形で発表を今後予定している。また、台湾でもフィールドワークを行い、国民党が大陸から連れてきた雲南少数民族と台湾原住民の調査も行い、資料調査も行った。それによって A B S 法などに対する台湾政府の法的対応も把握することができた。

## 4. 研究成果

主に国立民族学博物館を中心とする図書を中心に、琉球大学の紀要や学内プロジェクトの報告書などに論文の形で発表した。また、東北大学、九州大学でのシンポジウム、学会発表などを通じて市民に広く研究成果を還元した。特に国立民族学博物館では中国少数民族研究の専門家とともに研究成果を議論することができた。また、成果は今後も関連する学会などで発表していきたいと考えている。

また、研究成果は今後、環境庁やその他の国際的研究機関の場でも発表していきたいと考えており、論文の英訳作業を始めている。特に中国の周辺諸国や地域であるタイ、ラオス、ベトナム、ミャンマー、台湾においてはこの問題の研究は急務であり、日本が積極的にイニシアチブをとって発信する必要があると思われる。研究成果の一部を東北大学に提出した博士論文の形でまとめ、近く出版される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

稲村務 2012 「集合的記憶としての系譜  
中国雲南省および東南アジア諸国のハニ  
= アカ族の父子連名制系譜を事例として」  
『琉大アジア研究』11号 琉球大学国際沖縄  
研究所アジア研究部門 pp.1-54 査読有

稲村務 2012 「民族医薬辞典のなかのハニ族・  
アカ族・イ族の薬用植物知識の比較 「伝統  
的知識」をめぐる批判的検討」『琉大アジア  
研究』11号 琉球大学国際沖縄研究所アジア  
研究部門 pp.87 - 134. 査読無

稲村務 2013 「村落の移動と環境 - 雲南省を中  
心とするハニとアカの生態系」『地理歴史人  
類学論集』4号 琉球大学法文学部紀要人間  
科学別冊 pp.45-60 査読無

稲村務 2014 中国紅河ハニ棚田の世界文化景  
観遺産登録からみる「文化的景観」と「風景」  
『地理歴史人類学論集』5号 琉球大学法文  
学部紀要人間科学別冊 pp.23 - 70

稲村務 2014 「社会的関係と東南アジア 社  
会人類学についてのエッセイ」  
『人間科学』29号 琉球大学法文学部人間科  
学学科 pp.249 - 257 査読無

稲村務・村上めぐみ 2014・3 「北西ラオスの  
アカ族における植物知識および西双版纳州  
の商品作物市場調査報告」『地理歴史人類学  
論集』5号 琉球大学法文学部紀要人間科学  
別冊 pp.89 - 115 査読無

稲村務 2015 「笑い」と構造主義」『人間科学』  
32号 琉球大学法文学部人間科学科  
pp.79-102 査読無

稲村務 2015 「水と馬 清末までの雲南南部に  
おける『盆地国家連合』と『山稜交易国家』  
」『地理歴史人類学論集』6号 琉球大学  
法文学部紀要人間科学別冊 pp.41-63 査  
読無

稲村務 2014 「雲南紅河土司の『近代』 清末  
から共和国成立後まで」『琉大アジア研究』  
12号 琉球大学国際沖縄研究所アジア研究部  
門 pp.40-77 査読有

〔学会発表〕(計 5 件)

稲村務 「中国の「文化」の政治 紅河ハニ棚  
田の世界文化遺産登録と ABS 法」  
2014・7・1 環境科学研究科環境社会人類学  
分野 特別講義 於：東北大学東北アジア  
研究センター第二セミナー室

稲村務 「「文化」の政治 中国雲南省ハニ族  
の薬草知識と ABS 法」  
2014・7・26 九州人類学研究会研究発表会  
於：九州大学箱崎文系キャンパス文・教育・  
人環共同棟 2階会議室

稲村務 2014年10月18日 「資源としての  
歴史と記憶 アカ種族とハニ種族の事例よ  
り」国立民族学博物館共同研究会「資源化さ  
れる『歴史』 中国南部諸民族の分析から」  
(研究代表者：長谷川清) 国立民族学博物館

稲村務 2015年2月13日 「中国紅河ハニ棚  
田の世界文化景観遺産登録からみる「文化的  
景観」と「風景」 登録までと登録後」仙  
人の会 於東北大学

稲村務 2015年2月14日 コメンテーター  
東北大学東北アジア研究センターシンポジ  
ウム「東アジアの世界遺産と文化資源」(於  
東北大学片平さくらホール)

〔図書〕(計 5 件)

稲村務 2014 「棚田、プーアル茶、土司  
『ハニ族文化』の『資源化』」  
『中国の民族文化資源：南部地域の分析か  
ら』武内房司・塚田誠之(編) 風響社  
pp.191-233 査読有

稲村務 印刷中 「ハニ族と雲南イ族における  
薬草知識をめぐるポリティクス ABS 法と  
非物質文化遺産」『民族文化資源とポリテ  
ィクス 中国南部地域の分析から』塚田誠  
之編 風響社 査読有

稲村務 2015 「祖先と資源の民族誌 中国雲  
南省を中心とするハニ = アカ族の歴史人類  
学的研究」東北大学環境科学研究科博士号  
学位論文(2015年3月6日付) 査読有

稲村務 2014「山を目指してきた人々と海を目指していた人々 八ニ=アカ族とアミ族」『人類の拡散と琉球列島』池田榮史編 平成 25 年度琉球大学中期計画達成プロジェクト報告書 pp.85-115 査読無

稲村務 2015 「雲南紅河土司の歴史 八ニ=アカ文化の『断続性』」平成 26 年度琉球大学中期計画達成プロジェクト経費報告書『継続性と断続性 自然・動物・文化』(研究代表者：池田榮史) pp.137-186 査読無

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究代表者 稲村務 ( INAMURA, Tsutomu )

琉球大学・法文学部・教授

研究者番号：5 0 3 4 7 1 2 6

( )

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：